

「英語教育を、文学を通じて人間教育の立場から考える」という観点に立ち、英語教育学・英語学研究者の視点と英米文学研究者の視点の双方から、大学英語教育における効果的な文学教材の使用を研究している。コロナ禍以前は、同志社大学にて対面開催してきたが、コロナ禍以降の例会は ZOOM によるオンラインで開催し、2023 年度からは前期 1 回、後期 1 回の計 2 回の開催（土曜日）としている。2024 年度は第 2 回関西支部講演会を本研究会が担当し、10 月例会を兼ねた企画となった。いずれも英語教育における文学の必要性を改めて痛感する素晴らしい機会となり、全国各地からオンラインで多数のご参加をいただいた。

① 5 月例会（2024 年 5 月 18 日）

ご講演

1. 藤井香子先生（大阪大学、龍谷大学非常勤）英語圏児童文学研究会（CCLE）
タイトル：「現代社会の世相と児童文学の融合：A Monster Calls と My Brother's Name Is Jessica から読み解く子供たちが直面する現代社会」
2. Michael Herke 先生（摂南大学）
タイトル：「Literature X COIL: Two Media, Two Messages」

② 10 月例会：2024 年度第 2 回関西支部講演会（2024 年 10 月 19 日）「文学と英語教育」

ご講演

1. Rob Waring 先生（ノートルダム清心女子大学名誉教授）
タイトル：「Teaching literature with graded readers: Possibilities and pitfalls」
2. 玉井史絵先生（同志社大学教授）
タイトル：「なぜ文学が英語教育に必要なのか？」

以上の計 4 名ご講演により、会員一同、大変有意義な時間を過ごした。2025 年度は、前期と後期にそれぞれ例会を 1 回開催し、また出版企画を進める予定である。

研究会ウェブサイト：<http://bungakukyouiku.blog135.fc2.com/>